

## 日本臨床心理学会 第 54 回大会（大阪大会）開催に向けて 第 1 報

大会実行委員長 滝野 功久

今年は、日本の臨床心理学にとっては特別な年になります。言うまでもなく、最初の国家資格を体現する公認心理師が誕生するからです。本学会は 1964 年の設立以来、この資格の問題は、この団体にとっては当初から最大の問題・課題であり、絶えざる議論のテーマでした。そして、それに対して正面から向かって考え、悩み、怒り、闘い、交渉し、しつこく頑張ってきたと言えます。これは、1968 年前後に世界的に起きた「異議申し立て」のうねりに私達が最初から入っていたということと繋がっています。その後の時代の流れが変わると、他の学会は突きつけられた大切な問題や課題を忘れたかのように、次第に元と同じような権威的な学会組織に戻ってしまうなかで、この団体はその後もしつこく、心理的対人援助を巡る根本的な問題を意識しながら、矛盾に満ちた状況のなかでの資格制度のことを考え続けて来ました。

もともと、現実には厳しく、さまざまな理由も重なりこの団体は弱小化し、さらには内部葛藤を抱え、大変な道のりを歩まざるを得ませんでした。そのなかで、少なからぬ仲間が傷ついたり、流れから離れたり、全く別の分野に向かったりと、実にさまざまなことが起きました。しかしながら、それらすべては歴史的な意味をもつ貴重なプロセスだったと思います。今は無理でも、いつかは皆がそう思える日が来る、これを切に願っています。

今後もさまざまなドラマが起きるでしょう。しかし、将来の不確実性を受け入れ、起きてくるさまざまな問題には、むしろどのように活かせるか工夫して行けるか、それを私たち自信を豊かにするための課題にしましょう。

そうしたことを頭に置きながら、未来のことをしっかり考えたいと思います。そのために原点に戻ることは大切なことに違いありません。しかし、その前に、振り返りの仕方そのものを見直すべきでしょう。さまざまな視点からの検討、別なやり方の模索、未知のものへの試み、新しい企て、これらには、「対話」と「反想」が大きなキーワードになるかと思っています。大阪大会では、これらを意識しながら、全体のテーマを次のように考えました。

### 対話と反想、オープンダイアログとリフレクティングは、 社会的排除と差別に対してなにができるか？

日時：2018 年 9 月 29 日（土）30 日（日）

場所：大阪人間科学大学

内容の詳細は、次号学会ニューズレターCP紙にて、お知らせします。  
これまでとは違った工夫をしたいと考えています。提案がある方は次に連絡ください。

日臨心第 54 回大会事務局

kyotoisws@gmail.com